

*** 今日の健康(1月) ***

< 風疹と予防接種 >

風疹は風疹ウイルスの飛沫感染によっておこる病気です。潜伏期間は 2~3 週間で軽いカゼ症状ではじまり、発しん、発熱、耳介後部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか眼球結膜の充血もみられます。発しんも熱も約 3 日間で治りますので、「三日ばしか」とも呼ばれていますが、年長児や大人になってから罹患すると一般に重症化しやすく、3 日では治らないことが多いです。合併症として関節痛や、まれに血小板減少性紫斑病(3,000~5,000 人に 1 人)、脳炎(4,000~6,000 人に 1 人)などが報告されています。

先天性風疹症候群

風疹に対して免疫のない女性が妊娠前半期に風疹ウイルスの感染を受けると、その影響が胎児にまで及び、新生児に先天異常を含む様々な症状がみられることがあります。これは「先天性風疹症候群」と呼ばれ、症状として心疾患、眼疾患、紫斑、肝・脾腫、骨病変、聴力障害、低体重出生児、精神発達遅滞、糖尿病などが挙げられます。先天性風疹症候群を防ぐためには、免疫を持たない妊娠可能年齢の女性の感染を防ぎ、流行の主体となる幼児の風疹の流行を防ぎ、男性も妊娠中の女性にうつさないようにワクチン接種を受けるなどの予防対策が重要です。

風疹ワクチンについて

現在の風疹ワクチン(弱毒生ワクチン)は非常に効果的で、抗体の獲得率は 95% 以上で、20 年近く抗体が持続します。副作用は小児の場合ほとんどないか現れたとしても軽微で、軽い発熱、発疹、リンパ節腫脹などがありますが 100 人中 4 人以下です。成人女性の場合、一過性の関節痛が 100 人中 6 人程度にみられます。いずれも心配のいらぬ副反応です。接種後 1~2 週間に被接種者の咽頭からワクチンウイルスの排泄が認められることがありますが、まわりの人にはうつりませんから、お母さんが次の子供を妊娠中でも、お子さんは接種できます。妊娠の予定があつたり、妊娠している女性は胎児への影響があるので接種できません。また、女性がワクチン接種された場合、接種後 2 ヶ月間は避妊しましょう。



前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏